



2017.12.08 News ブイイトルン教授を迎えて定住外国人政策研究会

12月8日、18:30から霞が関シーボニアメンズクラブで、愛知淑徳大学ブイイトルン教授をゲストに招いて、定住外国人政策研究会を開催した。

ブイイトルン教授はベトナム出身、在日歴50年近い。定住外国人と言えるが、長年、外国人問題だけでなく、諸国の政策、文化の現代社会比較研究学に携わっている。

本日の招聘に先立ち、9月20日（水）研究会の戸田佑也氏と事務局長麻植で愛知淑徳大学に教授を訪ねた。

この日のインタビューで教授は、『外国人受け入れに対する「理念」の明示が先決である』

としたうえで・

- ・社会全体で考える
- ・将来どうなるかの問題
- ・メリットがあるのか
- ・よその活力を受け入れる
- ・マイナス面をどう減らすか
- ・おおすじをハッキリさせる
- ・社会全体をよくする考え
- ・社会をイノベーションする必要がある
- ・よそ者を誘引
- ・時期、社会状態による受け入れ外国人カテゴリーの設定が必要

など、外国人問題に対する客観的かつ大局的意見を述べた。

この指摘は、現在われわれが直面する外国人諸問題の方向性をほぼカバーする。



研究室にて（撮影：戸田佑也氏）

本日8日の討議で教授は「外国人の受け入れを、社会人の立場としてどう扱うべきか」と問題提起。

また各論としては；

現実として日本より韓国・台湾の方が希望者が多い。

理由は；

- ・ビザの在留期間が長い→韓国10年、台湾12年
- ・留学生：日本は勉強だけで帰国。韓国・台湾では企業が学生に就職を予約
- ・日本の対抗策一案：企業からの奨学金制度

生活者として受け入れるべきである、とする当研究会の考えと共有する。

外国人をめぐる大局的視点と現実対応の組みあわせ施策は、改めて再点検を行う。